

New Crown 第1回 Lessons

Lesson 1-1 : 名詞・動詞・形容詞

小学校の英語でいろいろな単語を学んだと思いますが、実は単語には「名詞」「動詞」「形容詞」といった種類があります。

=====
名詞 = 人・物・事などの名前を表す語。

<例> 本 (book) / 部屋 (room) / サッカー (soccer) / 月曜日 (Monday)

形容詞 = 名詞を説明する語。語尾の多くは「～い/～な/～の」。

<例> 大きい (big) / 小さい (small) / 背の高い (tall) / 忙しい (busy)

名詞と形容詞は「形容詞+名詞」の順番で足されます (日本語と同じ順番)。

<例> 大きい部屋 = big room (big = 大きい) (room = 部屋)
小さいテレビ = small TV (small = 小さい) (TV = テレビ)

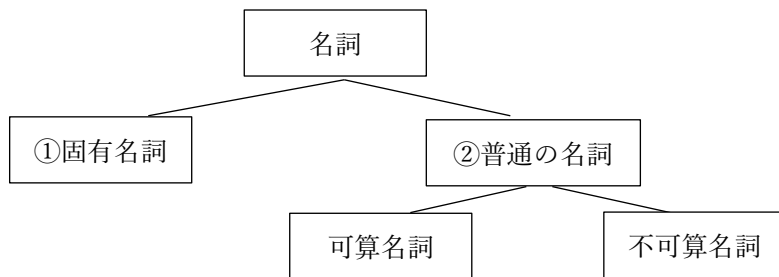
動詞 = 動作や状態を表す語。基本的に「う段」の音で終わる。

<例> 食べる (eat) / 歩く (walk) / 読む (read)

Lesson 1-2: 名詞の種類 (固有名詞・可算名詞・不可算名詞)

実は英語の場合「名詞」には様々な種類があります。いっぺんに全てを覚えようとするとう混乱してしまうので、ここでは基本的な種類のみ学んでいこうと思います！

<名詞の分類>



① **固有名詞** = 人名・地名・国名など、人や特定の物などの名前

<例> Taro (タロウ) / Spain (スペイン) / Tokyo Tower (東京タワー)
*最初の文字は常に大文字

② **普通の名詞** = 「可算名詞」と「不可算名詞」の2種類がある

(a) **可算名詞** = 数えられる名詞

<例> computer (パソコン) / book (本) / TV (テレビ)

(b) 不可算名詞 = 数えられない名詞

(液体、個々では数えたら多すぎる物、具体的な形の無い物、スポーツの種類など)

<例> tea (お茶) / rice (お米) / music (音楽) / tennis (テニス)

【ポイント!】

「可算名詞」と「不可算名詞」の覚え方として以下のものもある。

可算名詞=絵に描きやすいもの / 細かく砕いたら分からなくなるもの (形で認識している)

<例> 鉛筆 / ペン など

不可算名詞=絵にしにくい物 / 細かく砕いても分かるもの (材質として認識しているもの)

<例> 紙 / チョーク など

《単語練習について》

「単語がなかなか覚えられません。どうしたらいいですか?」という質問をよく受けます。これは、正直、たくさん練習するのがベストだと思います。様々な練習を繰り返し行い、覚えていく。ゲーム感覚で行うのが良いと思います。

スペリングにつきましては、たくさん単語を覚えることで、発音からある程度スペリングを推測できるようになります。例えば「~ション」という音は、~tion で表されることが多く、「プリ~」というのは pre~ で表されることが多いということに気づいたりします。やはり、たくさん練習するのが、最短な気がします。そこで (宣伝となってしまい申し訳ないのですが) 藤井が作成した以下のサイトをご利用いただくのがオススメです (https://withyoufujii.com/eiken_5q.html) こちらのサイトの「英単語&フレーズ」というところから練習できる単語リストを行っていただくのが良いかと考えています。

「英検徹底トレーニング」では、英検の各級に必要な文法・単語をきっちり学ぶことができます!

●「英検5級について」と「このサイトで学べること」

英検 5級

英単語&フレーズ

● #1 ● #2 ● #3 ● #4 ● #5 ● #6 ● #7 ● #8 ● #9 ● #10

● #11 ● #12 ● #13 ● #14 ● #15 ● #16 ● #17 ● #18 ● #19 ● #20

● #21 ● #22 ● #23 ● #24 ● #25 ● #26 ● #27

> 第1回 品詞

> 第2回 be動詞の文 (現在形)

> 第3回 一般動詞の文 (1) (現在形) <l / you / we / they>

確かに、英検5級向けに作った単語リストなのですが、book (本) や good (良い) といった基礎の基礎から練習できる内容となっていますので、学校の学習にもピッタリだと思います! (更に英検対策にもなって一石二鳥です!) フラッシュカードや、意味を答える問題だけでなく、スペリングの問題などもあり、たくさん練習できる内容となっておりますので、みなさん、ぜひご利用ください! m(_ _)m

Lesson 1-3: 名詞の「単数形」

「可算名詞」には『単数形（物が1つの時）』と『複数形（物が2つ以上の時）』とで名詞の形が変わるという特徴があります。例えば「ペンが1本ある」と言いたい時と「ペンが2本ある」と言いたい時では「ペン」という名詞の形が少し変わります。また、単数形の場合「大きな (big)」といった『形容詞』や「私の (my)」といった『所有格』がついても形が変わることがあります。

【ポイント】

- ・可算名詞には、**単数形・複数形** があり、形が変わる。
- ・単数形の場合「**形容詞**」「**所有格**」がついても形が変わることがあるので注意。

<単数形 = 名詞の前に **a** または **an** を足す>

【a を足す場合】

- ・**単語の最初の音**（つづりではない）が「a, i, u, e, o 以外（子音）」
<例> (1本の) ペン = **a** pen (1校の) 大学 = **a** *university
<*university は、u から始まるが音が「子音」なので a になる>

【an を足す場合】

- ・**単語の最初の音**（つづりではない）が「a, i, u, e, o（母音）」
<例> (1本の) 傘 = **an** umbrella (a umbrella = ×) 1時間 = **an** *hour (a hour = ×)
<*hour は、h から始まるが音が「母音」なので an になる>

【単数形の名詞に形容詞を足す場合の形 (a/an + 形容詞 + 名詞)】

- ・単数形の名詞に形容詞をつける場合の形 = **a/an + 形容詞 + 名詞**
- ・a/an を足すルールは、**形容詞の最初の音**で決まる。
 - (a) 形容詞の最初の音が「子音」 = **a** <例> 小さな机 → **a** small desk
 - (b) 形容詞の最初の音が「母音」 = **an** <例> 古い机 → **an** old desk

【「所有格 (my/your/his など)」や「this/that (この/あの)」が付く場合】

- ・基本の形：**所有格 (+ 形容詞) + 名詞** (a/an は消える)
this/that (+ 形容詞) + 名詞 (a/an は消える)
<例> 私の鉛筆 → my pencil (my **a** pencil = ×)
この古い本 → this old book (this **an** old book = ×)

Lesson 1-4: 可算名詞の「複数形」

可算名詞の複数形は、**名詞の最後に s または es を足せば完成**となります。では、具体的にいつ s を足し、いつ es を足すのか確認していきましょう！

【s を足す場合】

- ・**大部分の名詞**は、複数形にする時、語尾に **s** をつける。
<例> (何匹かの) 犬 = **dogs** (何冊かの) 本 = **books**

【 es を足す場合】

- ・ 単語の最後の文字が「s, o (*ただし「子音+o」のみ), x, sh, ch」の時。

覚え方 「ソックス (sox) をシュツチュ (sh, ch) と洗う」

<例> (何台かの) バス = buses (buss =×)
(何個かの) ジャガイモ = potatoes (potatos =×)

語尾が「子音+o」であっても、esではなくsが足される場合もある。

<例> ピアノ = pianos (pianoes =×) 写真 = photos (photoes =×)

【例外の理由】

- (1) もともと長い単語の短縮形は、語尾が「子音+o」でも複数形はsをつけることが多い。
piano → pianoforte が短くされた形 photo → photograph が短くされた形。
- (2) 外来語 (イタリア語など) は、語尾が「子音+o」でも複数形はsをつけることが多い。
soprano (ソプラノ歌手) の複数形 = sopranos (soporanoes =×)

- ・ 単語の最後の文字が「子音+y」の時は、y → i にして es

<例> (いくつかの) 国 = countries (countrys =×)
(何人かの) 赤ちゃん = babies (babys =×)

【例外の形】

- ・ 練習では、まだ登場しませんが、以下のような例外の形もあります。

	単数形	複数形
パターン1: 魚	fish	fish
パターン2: ナイフ	a knife	knives
パターン3: 男性	a man	men

パターン1 = 単数形と複数形が同じ形

<他の例> a sheep → sheep (羊)

パターン2 = 単語の最後が -f / -fe の時 → -ves にする

<他の例> a wolf → wolves (オオカミ)

パターン3 = 基本的に不規則な形。

<他の例> a child → children (子供)

【複数形の名詞に形容詞を足す場合 (形容詞+名詞)】

- ・ 複数形の名詞に形容詞をつける場合、s/es を足すルールは、通常通り名詞の最後に注目。

<例> 新しい生徒たち → new students
黒色の腕時計 (複数形) → black watches (最後が ch なので、-es)
悪いお話 (複数形) → bad stories (最後が子音+y なので、-ies)

【「所有格」「数詞 (one/two/three)」が入る形】

- ・ 「数詞」が入る場合 = 「数詞+形容詞+名詞」

<例> 2つの黒色の腕時計 → two black watches

- ・ 「所有格」が入る場合 = 「所有格 (+数詞) +形容詞+名詞」

<例> 私の2つの黒色の腕時計 → my two black watches

Lesson 1-5: 不可算名詞の特徴

実は不可算名詞には特徴があります！これらの特徴を理解しておけば、多くの場合、不可算名詞を見分けることができます。では、どのような特徴なのか？一緒に確認していきましょう

1. 液体、個々に数えたら多すぎる物、具体的な形がないもの、素材（細かく砕いても分かるもの）、スポーツ など

<例> milk / rice / music / *paper / soccer など

*paper は、基本的に「紙」という素材（主に木などの食部繊維から作る薄いもの）を表す言葉なので不可算名詞。日本語でよく言う「（1枚の）紙」は **sheet** とよく言われる。

2. 一般的に 名詞の前に **a/an** や 名詞の最後に **e/es** はつけない

<例> 良い音楽 = good music 古い牛乳 = old milk

3. 「所有格」「**this/that**」が入る場合

a. 所有格（＋形容詞）＋名詞 <例> 私の水 = **my** water

b. **this/that**（＋形容詞）＋名詞 <例> この新しいお米 = **this** new rice

【ポイント！】

名詞の中には「可算名詞」にも「不可算名詞」にもなれるものが多い。

<例> リンゴ (apple)

- ・可算名詞＝スーパーなどで売っている「赤い丸い形の果物」
- ・不可算名詞＝すりおろしたもの

髪の毛 (hair)

- ・可算名詞＝髪の毛一本
- ・不可算名詞＝一般的な髪の毛について（色・量など）

理解のポイントは、単語が「どのような意味で使われているのか？」を常に想像すること！